

6. モデル・カリキュラム ⑥

－実践的な技術として－

この史学概論カリキュラム案は、歴史学の学び方を教授することに主眼を置いて作成したものである。歴史学を学んでいく上で不可欠だと思われる実践的な技術と具体的な情報の提供に重点を置いている。歴史認識や理論・方法論はあえてここでは扱わない。このカリキュラム案は、西洋史を専攻する学生を主な対象と考えて作成したが、受講する学生の専攻によって様々な形があり得ることは言うまでもない。

史学概論（歴史学の学び方）

この講義は、歴史学を学ぶ際に不可欠だと思われる基本的な情報を提供することを目的としている。

I. はじめに

第1回 歴史学の俯瞰図

歴史学という学問の現在の位置づけを二つの視点から検討する。一つは、歴史学の学問領域の検討。つまり、歴史学が主として何を研究対象とし、他の学問とどのような点で区別され、その学問領域をどのように限定しているのかを検討する。二つめは、歴史学自体の内部の区分けの検討。すなわち、歴史学は、経済史、法制史、社会史という具合に、その細分化・専門化を進めているが、それらの区分けがどのようになされているのかを検討する。

II. 歴史研究者たち

第2回 歴史研究者たち

現在活躍している国内外の主要な研究者たちの仕事、経歴、研究テーマなどを紹介する。そこから、歴史学の現状と研究テーマの広がりを考える。

第3回 大学と研究機関

歴史研究者たちの職場の紹介を行う。歴史研究者たちは、具体的に、どのような大学の

どういう学部・学科に席を置いて研究・教育を行っているのか。大学以外では、どのような職場があるのか。彼らの研究環境はどういう状態なのかを紹介する。

第4回 歴史学会

歴史研究者たちの交流の場である学会を紹介する。国内外に、どのような学会があって、どのような活動を行っているのか。また、各学会の特徴・活動状況、学術雑誌の性格・内容などを紹介する。

Ⅲ. 歴史学の方法

第5回 史料の種類

研究文献、一次史料、オリジナル文書、遺物・遺跡など、歴史学の史料と考えられるものの紹介と性質の検討を行う。

第6回 研究文献

研究文献を読む際に注意すべき点を説明する。たとえば、よく見られる例として、著者が他の研究者の見解を利用しているにもかかわらず、参照した事実を明らかにしないために、自分自身の見解の一部であるかのような誤解を与えている場合があるが、そのような場合には、著者自身の見解と著者が参照した研究者の見解との識別が必要となる。また、文献に盛り込まれた情報がどのような資料から得られたものなのか、その内容が信頼できるかどうかのチェックも必要である。さらに、研究文献の様々な利用の仕方を検討する。

第7回 一次史料

一次史料を使う際に注意すべき点を説明する。たとえば、史料が作られた状況の検討、史料の残存形態の確認、書き手の主観が内容にどのように影響しているかの検討などである。また、オリジナル文書を読むために必要とされる暦学、度量学、古文書学などの紹介を行う。

第8回 遺物・遺跡

文書史料以外の遺物・遺跡、絵画、伝承などの資料とその使用例を紹介する。

第9回 史料の探し方

日本及び外国の図書館、古文書館の利用の仕方を説明する。また、古文書館や図書館から直接史料を取り寄せる方法・手続き、海外の書物の購入の仕方を説明する。

第10回 情報の処理と蓄蔵

集めた情報をどのように整理するかを説明する。とくに、カードの種類とその利用法を紹介する。また、情報処理にはコンピューターが必要不可欠なので、その利用の仕方を簡単に説明する。

IV. 歴史学論文の書き方

第11回 テーマの設定

どのようにして問題を限定し、論文のテーマを選ぶかを説明する。論文の種類には、研究動向論文、緻密な実証論文、壮大な理論を提示する論文など様々なものがあるが、それらの代表例をいくつか紹介する。また、思いついたテーマに関してどのようにして先行研究を調べるのか、論文執筆が可能かどうかをいかにして見極めるかを説明する。

第12回 論文の目的・構成

論文を書く上での基本的な技術、構成上注意すべき点などを説明し、説得力を持つ論文とはどのような論文であるかを検討する。説得力のある論文、説得力に欠ける論文の実例をいくつか紹介しながら、資料の引用、論文の構成、論旨の展開等の観点から解説していく。

第13回 論文の形式Ⅰ

論文を書く上で必要不可欠な引用の仕方や註の書き方、註に用いる慣用的な表現、略号などを説明する。また、文献目録の作成の仕方、書き方を説明する。一覧表を配付し、実際に書く訓練を行う予定である。

第14回 論文の形式Ⅱ

論文や本を出版する際に必要となる原稿の校正の仕方や校正に用いる記号・略号を習得させる。前回と同じく、一覧表を配付し、実際に書く訓練を行う。

V. まとめ

第15回 まとめ

一学期を通して講義してきた内容のまとめを行う。併せて、学術論文の投稿の仕方も説明する。

(高山 博)